

県立図書館だより

令和4年10月

青森県立図書館報 第44号

デジタルアーカイブから



『明治三十五年略暦：和島丑右衛門』（1901）

https://da.plib.pref.aomori.lg.jp/archives/detail?cls=collect_01&pkey=t0680_02

商店の宣伝のために作られた、明治35年（1902年）の暦。龍と虎が対峙する迫力ある構図で描かれている。和島丑右衛門は青森市博労町にて手広く商売を営んだ人物。

目次

デジタルアーカイブから	1
企画展「作家の愛用品展	
ーちょっとレトロなものたちー	2
こどものひろば	3
ご存じですか？この人・この資料 ～郷土資料の紹介～	4
ようこそ文学館へ！ 近代文学館資料の紹介	5
カウンターからひとこと	6～8

作家の愛用品展

—ちょっとレトロなものたち—

作家のこだわりが感じられる「もの」。日常生活で好んで使っていた「もの」。生涯大事にしていた「もの」…。作家にもそれぞれ愛用品があります。青森県ゆかりの作家たちが愛用していた、ちょっとレトロな文房具や道具類など、さまざまな種類の「もの」を公開し、愛用品をとおして作家を紹介します。なお、愛用品は基本的に写真撮影可能です!!



棟方志功のテレビ
青森県立郷土館所蔵

- ◇会期 令和4年10月29日(土)～12月25日(日)
開館 9時～17時 入場無料
休館 11月9日(水)、11月24日(木)～30日(水)、
12月22日(木)
◇会場 青森県近代文学館企画展示室(青森県立図書館2階)



【関連企画】

- ◇「レトロギャラリー」 企画展示室横廊下
・昭和時代の青森県各地の懐かしい写真をたくさん展示します。
- ◆「展示ナビ」 随時受付
・展示内容について当館の解説員がわかりやすく解説します。



太宰愛用の万年筆
(エバーシャープ)

※予定が変更になる場合があります。最新情報についてはホームページ →
をご覧ください。Tel 017-739-2575 までお問い合わせください。



こどものひろば



青森市郊外に位置する青森県立図書館の周辺には、田んぼが広がっています。田植えの時期には、田んぼに張った水が光を反射して、眩しいほどにキラキラと輝き、収穫の時期には、豊かに実った稲穂が黄金色に輝く光景をみることができます。そして、稲刈りを終えた田んぼからは、冬の訪れが近いことを感じます。

青森県はお米の主産県。自然豊かな青森で収穫された美味しいお米は、全国の食卓に届けられています。10月の一般閲覧室企画展示（展示期間：9月23日～10月26日）では、10月10日の青森のお米「青天の霹靂」の日、10月26日の青森のお米「つがるロマン」の日に合わせ、「お米」をテーマに本を展示しています。

今回の「こどものひろば」では、展示している本の中から、青森県田舎館村出身の鈴木喜代春さんの民謡物語『十三の砂山』をご紹介します。

『十三の砂山』 鈴木喜代春/作 野村邦夫/絵 岩崎書店 1979

青森県の津軽半島北西部には、日本海につながる十三湖という湖があります。この物語の舞台は、十三湖と日本海の間にある砂山にある、十三という村です。

むかし、この村の人たちの生活は大変貧しいものでした。湖のへりの狭い沼地に米を作り、僅かにとれた米を、どの家にも同じように分けて暮らしていました。村の少女、おはなの家にも米が分けられましたが、米はすぐになくなってしまいますので、お母さんが湖でしじみをとって暮らしていかなければなりません。家には、病気のお父さんと、小さい弟妹がいます。

ある夜、沼地に実った稲の穂を盗んでしまったおはなは、村のおきてに従い、船に売られることになってしまうのです。

「十三のすなやま こめなら よかる にしの 弁財衆（ふなのり）に ただ つましょ」



一般閲覧室企画展示「お米」
「十三の砂山」原稿（複製）
青森県近代文学館蔵

10月のおしえて先生！知るしるする探検隊

日時 10月22日（土）14:00～14:30

場所 青森県立図書館4階集会室 ※事前申込不要

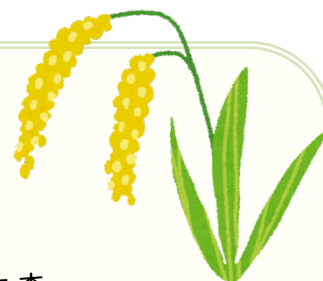
テーマ あおもりけんのおいしいおこめ

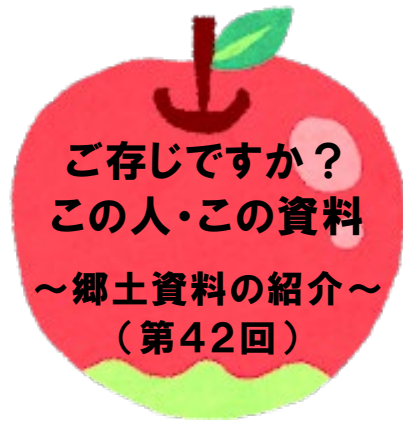
隊長 青森県農林水産部 農産園芸課 小野 泰一 主査

内容 青森県のお米の種類や、米づくりの主な作業について
お話してくれます。

これまでの探検の様子は、青森県立図書館ホームページでみることができるよ！

(<https://www.plib.pref.aomori.lg.jp/kids/fun/teacher/>)





青森県立図書館では、青森県に関する資料や青森県内で刊行された資料、青森県在住者・出身者の著作物等を郷土資料として積極的に収集し、永く保存するとともに、県内外の皆様幅広くご利用いただいております。

本コーナーの第31回（図書館報33号）では「建部綾足^{あやたり}」について、第33回（図書館報35号）では「弘前れんが倉庫美術館」について紹介しましたが、これらの関連図書

が今年出版されましたので、今回ご紹介します。

『建部凌岱展』(板橋区立美術館 2022.3)

建部綾足^{ひさむら}は、本名を喜多村金吾久域^{ひさむら}といい、1719年（享保4年）に津軽藩家老喜多村家の次男として江戸に生まれ、津軽で育ちました。二十歳春に出奔し、故郷を出た綾足は、江戸と京都を拠点に全国を旅して、俳人、国学者、読書作家、画家など多彩な才能を開花させて活躍します。号は綾足のほかに凌^{りょう}岱^{たい}、涼^{りょう}袋^{たい}、吸^{きゅう}露^ろ庵^{あん}、寒^{かん}葉^{よう}斎^{さい}などがあります。

本書は、2022年3月12日から4月17日まで、板橋区立美術館で開催された『「建部凌岱展ーその生涯、酔^よたるか醒^{さめ}たるかー」展』において展示された作品図版集であり、屏風『四季竹図^{しきたけず}』、『海錯図^{かいさくず}』をはじめとする青森県立図書館所蔵の38点を含む綾足（凌岱）の数々の作品が解説とともに収録されています。

青森県立図書館所蔵の綾足（凌岱）関係資料は、青森県立図書館デジタルアーカイブでも公開しており、画像を拡大して細かな描写までご覧いただけますので、ぜひご利用ください。

『弘前れんが倉庫美術館』(田根 剛著 2022.7)

弘前市にある明治・大正期に建設された近代産業遺産「吉野町煉瓦倉庫」は建築家・田根剛氏によって改修され、「弘前れんが倉庫美術館」として2020年にオープンしました。本書は、弘前れんが倉庫美術館に関わる弘前の歴史、煉瓦倉庫の変遷、考古学的なリサーチ、建築のコンセプト、解体・修復の様子や論考が、現場写真や建築図面とともに英文併記で記されています。

ちなみに、美術館になる前の煉瓦倉庫では、弘前市出身の現代美術家・奈良美智による展覧会が2002年、2005年、2006年に開催されてきましたが、最初の展覧会から20年を迎える本年、『「もしもし、奈良さんの展覧会ではできませんか？」奈良美智展弘前2002-2006ドキュメント展』が開催されています。

（会期：2022年9月17日から2023年3月21日まで）

今回ご紹介した資料は、いずれも館外への貸出が可能ですので、どうぞご利用ください。

ようこそ文学館へ！

近代文学館資料の紹介(第43回)

企画展「作家の愛用品展—ちょっとレトロなものたち—」

展示資料から

青森県近代文学館では令和4年10月29日から12月25日まで、企画展「作家の愛用品展—ちょっとレトロなものたち—」を開催します。今回は展示資料の中から、太宰治の湯飲みと、北畠八穂の執筆用机と愛用品をご紹介します。

①太宰治の湯飲み（人間国宝 濱田庄司 作）

太宰治が使用していた湯飲みです。太宰の妻・津島美知子は、太宰の愛用品として、花梨の座卓、



「太宰の机の上に湯のみ茶碗がのっている写真があるが、この湯のみは某社から何かの記念に贈られた益子焼で、彼は執筆中あまりお茶を要求しなかったから、愛用品とは言い難い。」（『回想の太宰治』1978年、人文書院）と述べています。とはいえ、「身のまわりに、あってもなくてもよいものをおくことがきらい」だった太宰の数少ない遺品の一つであり、太宰の生活を感じられる貴重な品です。

②北畠八穂の執筆用机と愛用品

青森市生まれの児童文学作家・北畠八穂は、19歳のころに発症した脊椎カリエスという病と終生闘いながら、逆境にめげずにたくましく生きる子どもたちの姿をみずみずしく描きました。

病による痛みを抱えながらも、この津軽塗の机で愛用の万年筆などを使って作品を執筆し続けました。

当館には北畠八穂の遺品が数多く寄贈されており、どのような生活を送っていたのかを感じ取ることができます。今回の企画展では、愛用の品々を使用している写真と共に数多く展示していますので、北畠八穂や作家たちを身近に感じてもらえると思います。



カウンターからひとこと (第42回)



前回に引き続き、Myライブラリの機能についてご紹介します。Myライブラリへのログイン方法については、図書館だより前号またはホームページをご覧ください。

●貸出状況の確認

Myライブラリ内の「借りている資料」をクリックすると、「貸出状況一覧」が表示されます。



「貸出状況一覧」内の書名をクリックすると、「貸出状況詳細」へ移動します。



「貸出状況詳細」内、下段の「貸出詳細」では、返却予定日や予約の有無、延長回数などが確認できます。

また、返却予定日の3日前になると、「貸出延長」ボタンが現れ、延長の手続きができます。

詳しくは、当館ホームページをご覧ください。

(https://www.plib.pref.aomori.lg.jp/uploads/Borrowing_1.pdf)

● 資料の予約

1. 「資料検索」で資料を検索します。

「検索結果一覧」で書名をクリックすると、「資料詳細」画面へ移動します。

2. 「資料詳細」画面内の「予約かごへ」をクリックします。

※Myライブラリにログインしていない場合、「予約かごへ」をクリックすると、ログイン画面に移ります。

3. 「予約かごへ」から、予約する資料に☑チェックが入っていることを確認し、「予約」ボタンをクリックします。

「予約かごへ」から、予約受取館及び予約連絡方法の変更が可能です。

協力館で予約本を受け取る場合は、予約受取館を指定してから「予約」ボタンを押してください。

4. 「予約内容確認」画面で予約する資料を確認し、**予約**ボタンをクリックします。

予約内容確認

以下のタイトルが予約できます。

予約種別	予約
予約受取館	県立
予約連絡方法	メール（自PC）
予約有効期限	9999/12/31

1  **希望の糸**
東野 圭吾／著 -- 講談社 -- 2019.7 -- 913.6

確認メール

☐ 予約確認メールを送信する ▼

キャンセル
予約

予約確認メールを送信する場合は、確認メール欄に☒ チェックを入れてから**予約**ボタンをクリックしてください。

5. 「予約結果」画面に移ると、予約完了です。予約状況は、**予約した資料**から確認できます。

予約結果

以下のタイトルについて予約を行いました。

1  **希望の糸**
東野 圭吾／著 -- 講談社 -- 2019.7 -- 913.6

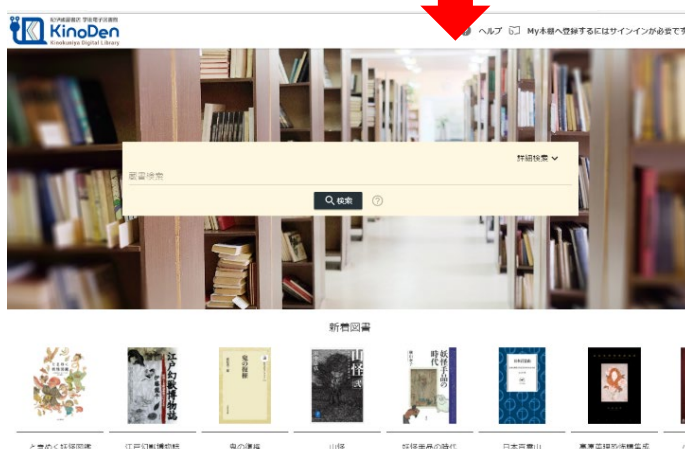
 **予約した資料**
予約状況を確認できます。 1冊

★ My ライブラリから電子書籍を利用できます！

My ライブラリにログインすると、電子書籍閲覧サービス「KinoDen」を利用できます。



My ライブラリ内の**KinoDen**のボタンをクリックすると、「KinoDen」の電子書籍を選ぶページに映ります。



電子書籍の詳しい利用方法については、当館ホームページをご覧ください。

<https://www.plib.pref.aomori.lg.jp/find/e-book/>

その他の機能については、また次回、ご紹介します！